

## ☆抗がん剤の副作用について～その4～口内炎について☆

口内炎は、がん化学療法時の30～40%程度に出現するといわれ、発生頻度の高い副作用です。口内炎は痛みにより、食事摂取の量を減らしたり、コミュニケーション機能を阻害したりして、生活の質を低下させる要因となります。

がん化学療法に伴う口内炎の発生機序は大きく2種類に分けられ、

### ①抗がん剤の直接作用による口内炎

抗がん剤の投与後、その直接作用により口腔粘膜の破壊や炎症が起こり、粘膜が荒れることに起因

### ②白血球(好中球)減少による局所感染性(二次的作用)の口内炎

抗がん剤投与による骨髄抑制(白血球減少)時の口腔内常在菌などによる局所感染から生じる口内炎があります。

ここでは、歯科衛生士から口腔ケアのポイント、また、口内炎治療薬の一部をご紹介します。



## <抗がん剤による口腔内のトラブルについて>



### ①口内炎による痛みがあるとき・・・

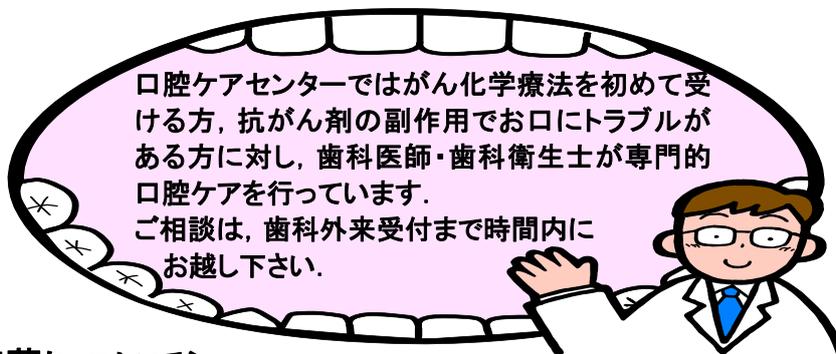
口内炎や口腔粘膜の痛みから歯磨きが不十分になると口内炎の治りも悪くなります。粘膜に痛みがあるときには柔らかい歯ブラシで歯茎に当たらないように丁寧に磨きます。歯磨き粉は刺激になるのでなるべく使わないようにしましょう。

### ②口腔内が乾燥するとき・・・

放射線や抗がん剤治療により唾液の分泌が減り、口腔内が乾燥しやすくなります。乾燥した粘膜どうしが擦れると傷になることがあるので、口腔内はなるべく湿潤した環境に保つことをおすすめします。

乾燥時や口腔ケア後に舌・粘膜・口唇に保湿剤(オーラルバランス¥1900, ウェットキープング¥1400等)を塗布することで乾燥を緩和できます。

また、うがいやシュガーレスキャンディをなめるなども乾燥を防ぐのに効果的です。



## <口内炎治療薬について>

口内炎症状がひどくなった場合などに、①痛みや炎症を緩和する目的、②口内炎をできにくくするための予防目的にうがい用のお薬を使用することがあります。(治療法によって予防の対処方法が異なる場合もあります。)

症状が出現して辛いときは、主治医や外来化学療法室のスタッフまでお声かけ下さい。